

放課後等デイサービス事業における自己評価結果（公表）

公表：2023年 3月 31日

事業所名 たまキッズルーム豊田

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	未回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	0	0	・外出したり机上活動をして児発と重ならないようにしている ・2つのスペースを使用している ・低学年・高学年と分けたりする	・土曜日は片方の部屋で児発があり、少し狭かったり、遊ぶ内容が限られる
	2	職員の配置数は適切である	1	3	0	0	・足りない時はパートやヘルプで調整している	・曜日や時間帯によっては体制が厳しい時あり、イレギュラーに対応できるよう余裕が欲しい ・基準には達しているが、送迎できる人員が足りておらず、公休が限定される場合がある ・病休になると厳しく、有休も取りづらい状況
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	0	2	0	・視覚的に分かりやすくしている	・トイレ段差有 ・バリアフリーの部屋にはなっていない ・部屋同士の天井が吹き抜けで繋がっており、物音が響きやすい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0	0	0	・毎日、朝礼と終礼で日のフィードバックを行う ・支援計画書の確認	
	5	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	0	0	・共有できるようになっている	
	6	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	0	3	0		・事業主が努力し探している
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	0	0	・コロナ禍で、社員数も増員したため、ZOOMによるオンライン総会を実施 ・月1回の実施	・中途入社による、資質向上のための研修やマニュアル作成の準備を模索中 ・研修に割ける時間が乏しく、体制的に厳しい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3	1	0	0		・ツールはあるが、活かされていない
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2	0	1		・アセスメントのツールはあるが、初回以降は情報共有という形で行っている ・作業効率を考慮すると今後の検討課題
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	0	0	・子どもの実態や成長に合わせ目的を持って実施 ・打合せて共有している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	0	・プログラムは毎月変えている ・計画外出やクッキングなど児童の経験値を上げる取組みも増えている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか	3	1	0	0	・事前に計画し体制を整え、個別療育できるように配慮している	・体制によりできる時できない時がある
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	3	0	1	0	・調べ学習や買物を個別に行っている。 ・集団がメインであるが、高学年の児童に個別の課題を与えて計画や振り返り活動ができている。	・体制的に余裕が持てず、余裕ができれば個別活動にも力を入れたい
	15	支援開始前には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	0	0	0	・ミーティングで打ち合わせや連絡ノートを活用している ・児発管を中心に共有している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	0	0	・ミーティングで振り返り共有している ・終礼している	
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0	0	・連絡ノート・ケース記録の活用	
	18	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	0	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	3	0	0	1		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	1	0	1	・連絡会等にはできる限り管理者が出席している	・まだ開催されていない
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	4	0	0	0	・連絡帳での変更確認、学校からの手紙の確認、保護者とのメール確認等で行っている	・下校時刻の確認等では何度か行き違いが起きた。保護者の間違いの可能性の部分については早めに確認ができたが、気づかず児童を待たせてしまう事があった ・コロナもあり、学校等と連絡を取合う機会はほとんどない ・全ての学校ではないが行っている ・全ての子が行っているわけではない

関係機関や保護者との連携	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている						
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている						
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	1	1	0	・全ての施設ではないが、必要な事は共有している	・エール（発達支援センター）と共有している ・セルフプランを保護者主体で作成しているため、通所先の変更や担任の変更など、適切な関わりの必要性を感じる
	25	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	0	3	0	1	・保護者とは将来的な話題を確認している	・まだそのケースが無いが、ある場合はする
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	2	0	・全ての施設ではないが、必要な事は共有している ・年1回事業所連絡に参加し情報共有している	
	27	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	0	1	0	・交流とまではいかない場合もあるが、地域の遊び場を活用している	・コロナで対外的なところには行っていない
	28	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育てで会議等へ積極的に参加している	0	1	3	0	・全ての施設ではないが、必要な事は共有している	・コロナ禍で難しい
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0	0	・送迎時など共有できるようにしている	
	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	1	2	1	0	・常に助言はしている	・体制的に踏み込んでいくのが難しい部分 ・事業所内研修を行い、資格を有しないスタッフへのサポートとしつつ、保護者へも伝えていけるよう支援の視点統一を図りたい
保護者への説明責任等	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0	0	・欠席加算の説明をしている	
	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0	0	・面談にて行っている ・日々連絡帳や送迎時に相談対応している	
	33	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	3	0		・コロナで難しい ・環境が落ち着いたら保護者参観を設定し、孤立が心配される保護者のサポートを考えたい
	34	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0	0		
	35	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	0	0	・ブログ等の更新はこまめにされている ・月間療育予定を配布し見通しを持ってもらいやすくなっている	
	36	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	0	0	・シュレッダーの使用	
	37	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0	0		
	38	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	1	0		・コロナ禍で地域行事は難しい
非常時等の対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0	0	0		・BCP含めマニュアルの見直しの必要性は感じている ・マニュアルはあるが周知できていない部分がある ・保護者への周知は全てではない部分がある(防犯など) ・ご契約やご面談時に簡易的に説明している
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	0	0	・避難訓練の実施 ・公園外出でも避難場所を教えている。	
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	0	0	・基本的に依頼や連携を取っている訳ではないが必要がある場合は医師の指示書等の準備をお願いしている。	
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	0	2	0		・体制が変わり、ツールがあっても周知できてない
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0	0	・年1回の実施	
	44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	1	0	1		・ご契約時に保護者に説明はしているが、詳細に説明できているとは言えない ・該当する児童がいない ・ある場合は対応する

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年 3月31日

事業所名 たまキッズルーム豊田

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	0	0	・外出したり机上活動をして放デイと重ならないようにしている	
	2	職員の配置数は適切である	2	2	0	0	・足りない時はパートやヘルプで調整している	・余裕のある時もあるが、曜日によってはギリギリになる時もあり、イレギュラーに対応できるよう余裕が欲しい ・基準には達しているが、有休は取りにくい状況 ・病休になると厳しく改善が必要
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	1	1	0	・視覚的に分かるように色や絵で工夫している（玩具片付けケースに写真を貼ったり、トイレにマークがある）	・バリアフリーにはなっていない。その機能があればありがたい（トイレ段差有） ・トイレの段差がバリアになる事もある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	0	0	・危険がないよう広いスペースの確保 ・毎日の掃除・消毒の徹底など	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0	0	0	・支援計画書の確認 ・毎日朝礼と終礼で1日のフィードバックを行っている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	0	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	0	3	0		・事業主が努力し探している
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	0	0	・コロナ禍で、社員数も増員したため、ZOOMによるオンライン総会を実施	・中途入社による、資質向上のための研修やマニュアル作成の準備を模索中
適切な支援の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3	1	0	0		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2	0	1		・アセスメントのツールはあるが、初回以降は情報共有という形で行っている ・作業効率を考慮すると今後の検討課題
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	0	0	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	0	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	0	0	・打合せして共有している ・内容は毎月変えている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	0	・皆で案を出し合い毎月考案している ・机上課題も複数準備している ・児童ごとに課題の目標を変えている	

提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	0	0	0	・イレギュラーな対応が必要な場合は個室など利用し個別に対応している	・個別は今後の検討課題
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	0	0		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	0	0	0		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	0	0		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	1	0	1	・会議には管理者ができる限り参加している	・まだ開催されていない
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	0	2	0		・発達支援センター（エール）や子家セン、幼保などとも連携していきたい ・定期的には行っていないが、要望があれば連携は取っている
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている						
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている						
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	1	1	0	・全ての施設でないが、必要な事は共有している	・関係機関との連携は必要に応じて問い合わせたり確認したり等の繋がりはあるが、児童の発達に関わる事で相互理解を図るまでの段階にはない。他機関で得られた情報や数値、記録等については保護者からの情報提供を受け、職員間で共有している。 ・これからの課題
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	2	1	0	・25に同じ	・25に同じ ・該当なしだが、必要性があれば行う
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	2	0	・25に同じ ・保護者様を通じて助言は共有している ・年1回事業所連絡に参加し情報共有している	・25に同じ
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	0	2	0	・外出時の公園では居合わせて遊んでいる	・25に同じ
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	1	3	0		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0	0	・その日の出来事を共通認識として報告	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	1	2	1	0	・常に助言はしている ・必要性を伝え、医療関係施設を紹介してサポートしている	・体制的に踏み込んでいくのが難しい部分 ・事業所内研修を行い、資格を有しないスタッフへのサポートとしつつ、保護者へも伝えていけるよう支援の視点統一を図りたい

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	0	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	0	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0	0	- 定期的ではないが連絡帳に記載があれば助言や返事をし、口頭でも伝えている - 面談の内容を共有している	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	0	4		- コロナ禍で交流は難しい - 環境が落ち着いたら保護者参観を設定し、孤立が心配される保護者のサポートを考えたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	0	0	- 月間の療育予定を手紙で渡している - ブログで発信している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	0	0	・シュレツダーの使用	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0	0		
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1	3	0		・コロナ禍で地域行事は難しい
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	1	0	0		- BCP含めマニュアルの見直しの必要性は感じている - マニュアルはあるが周知できていない部分がある - 保護者への周知は全てではない部分がある（防犯など） - ご契約やご面談時に簡易的に説明している
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	0	0	・避難訓練の実施	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0	0	0	・共有できている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	0	0	・アレルギーの有無は把握しているが、医師とは必要な時以外繋がっていない	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	0	2	0		・体制が変わり、ツールがあっても周知できてない
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	0	0	・年1回の実施	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	0	0	1		- ご契約時に保護者に説明はしているが、詳細に説明できているとは言えない - 該当する児童がいない - ある場合は対応する